

行の柱間は一定でなく、北東側は0.9m、南東側は1.5・1.0mを測る。柱穴の掘り方の径は30～46cmで、深さは浅くて一定でない。

出土遺物はない。

② ST13 (挿図10)

調査区南西部CL19・CM19を中心にして柱穴6個がコの字形に並び掘立柱建物と把握した。梁行は2間で、桁行は2間以上と考えられるが、北西側の柱穴が検出できなかったので不明となる。桁行方向はN54°Wを示す。柱穴の掘り方径は14～20cmで、深さは浅くて、6～13cmを測る。

出土遺物はない。

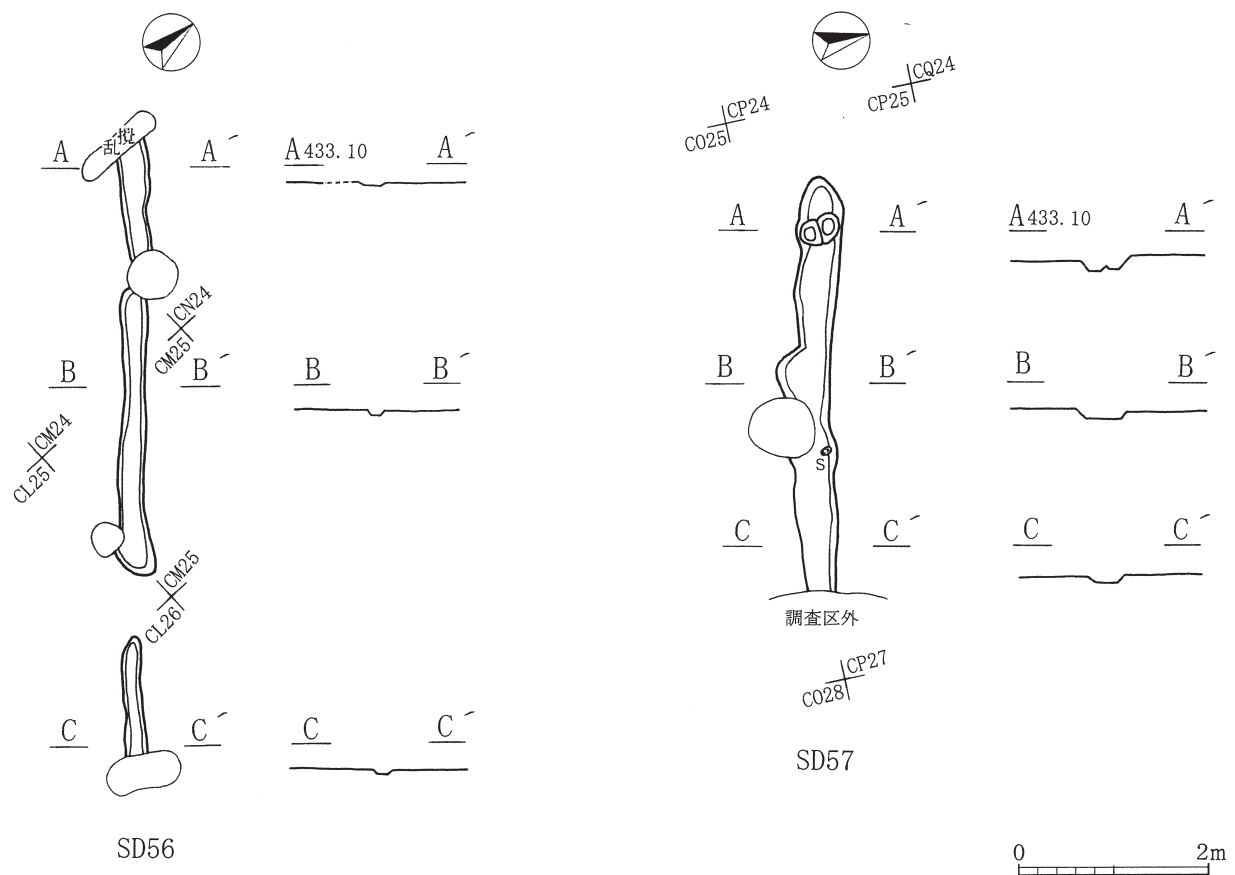
(3) 溝

① SD56 (挿図11)

調査区中央部CN24からCL26にかけて検出し、柱穴に切られる。長さ4.6mを測り、途中で68cm途切れ、長軸方向はN50°Wを示す。土層は砂利の一層で、断面形は浅い逆台形をなす。底面は基本的に平坦であるが、水流で抉れた箇所がある。北西側・南東側に延長すると考えられるが、検出できなかった。

出土遺物は土師器片16点がある。

遺構・土層の状況から、小規模な自然流路と把握される。



挿図11 SD56・SD57(1:80)

② SD57 (挿図11)

調査区北東端部CP25からCO27にかけて検出し、柱穴に切られる。長さ4.4mを測り、長軸方向はN78°Wを示す。土層は砂利の一層で、断面形は浅い逆台形をなす。底面は基本的に平坦であるが、水流で抉れた箇所がある。東側の調査区外に延び、西側に延長すると考えられるが、検出できなかった。

出土遺物は土師器片16点がある。

遺構・土層の状況から、小規模な自然流路と把握される。

(4) その他

① SX08 (挿図12)

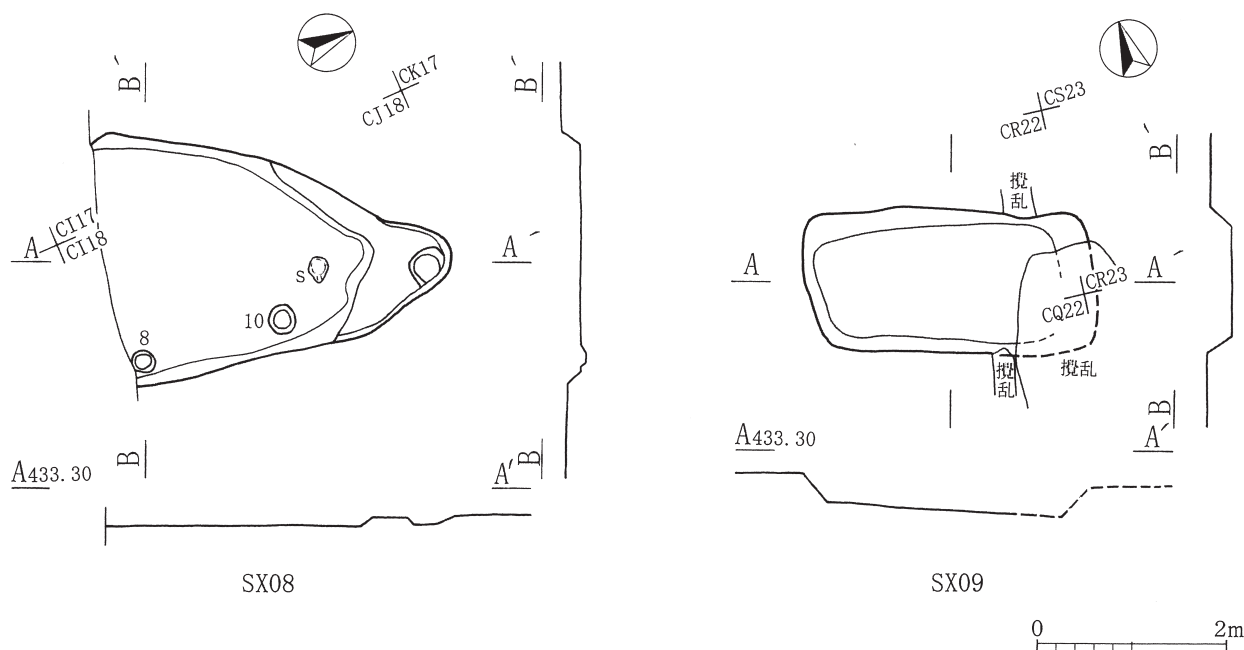
調査区南西端部CI18を中心にして検出し、南側が調査区外となる。東西方向の長さが2.6mを測り、平面形は不明である。壁高は11~23cmを測り、緩やかな壁面をなす。底面は平坦で穴が2箇所を確認され、北側がテラス状に段を持つ。

出土遺物は極めて少なく、土師器片2点がある。

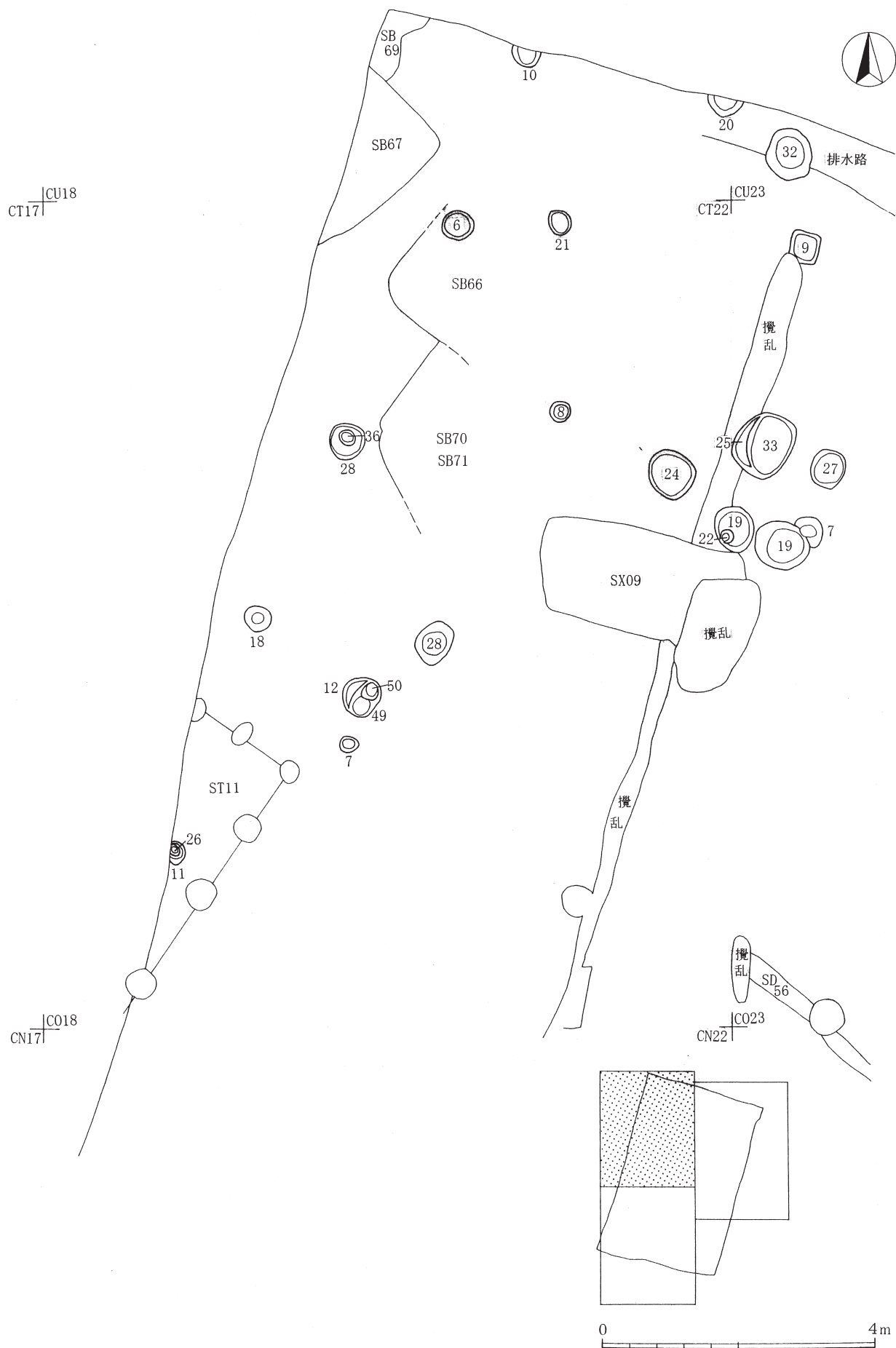
② SX09 (挿図12)

調査区北部CR22を中心にして検出し南東部が攪乱を受けている。1.5×3.0mの隅丸長方形を呈し、長軸方向はN80°Wを示す。壁高は22~35cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。底面は平坦で、穴などは確認されなかった。

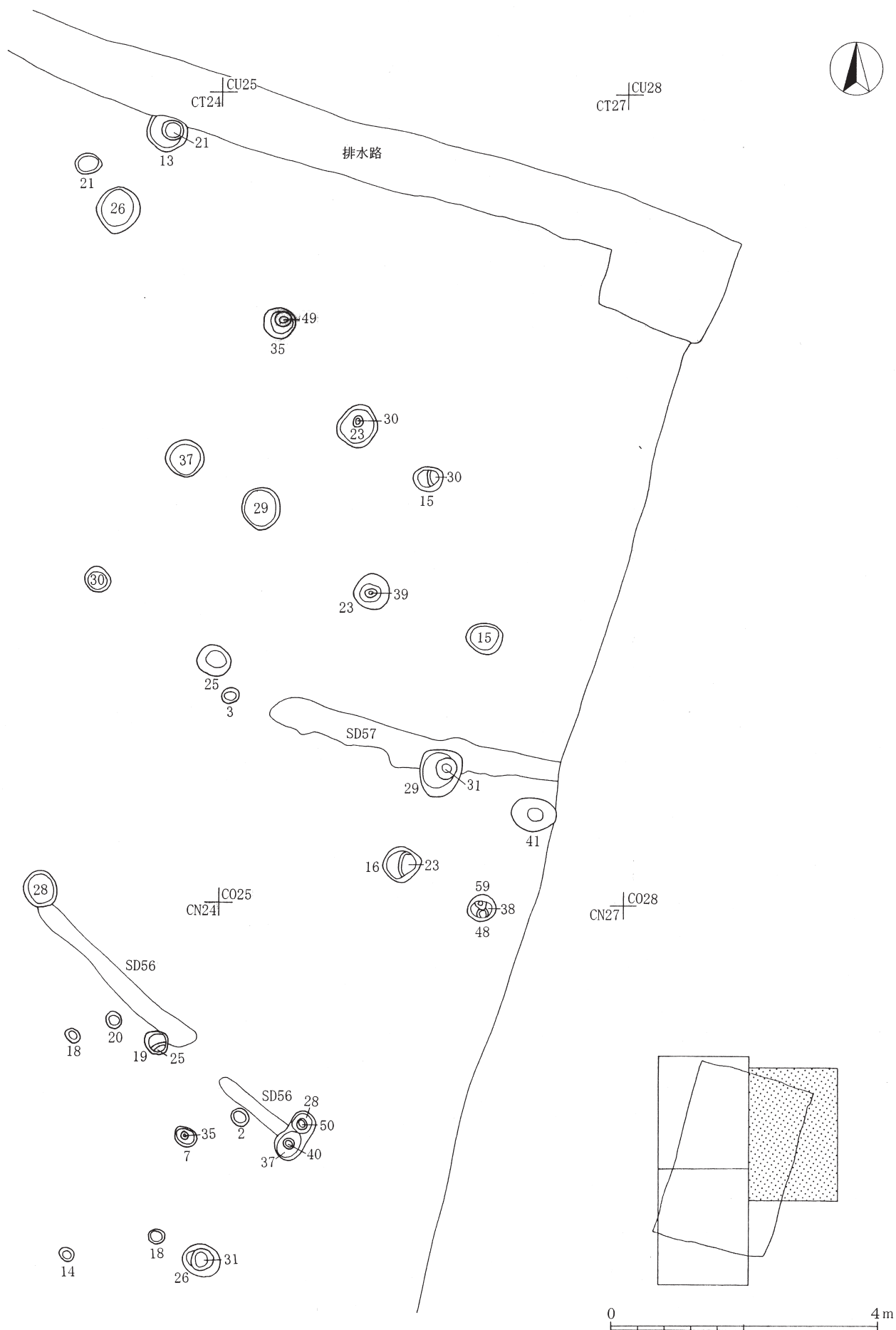
出土遺物は極めて少なく、弥生土器片1点・土師器片2点・須恵器片1点がある。



挿図12 SX08・SX09(1:80)



挿図13 柱穴・穴その1 (1 : 80)



挿図14 柱穴・穴その2 (1:80)